





## 教師のフィードバック

次に、教師がフィードバックする方法について考えましょう。作文指導で大切なことは、学生の「作文を書く」という気持ちを高めることです。ですから、学生の間違いを何もかも直してしまうなど、学生が自信をなくしてしまうような直し方は避けたほうがいいでしょう。

そこで、間違いや不自然な部分をすべて完全に直すのではなく、その作文で教師が大切だと思う部分を中心に添削すると、何が重要なのか学生にも理解しやすいでしょう。

例えば、次のような点に注意してみましょう。

- ① 全体の内容がわかりやすいか。
- ② 焦点となる文法項目や表現（この例では「～てもら～てくれる」）が正しく使われているか。
- ③ 既習の文法項目や語彙が正しく使われているか。
- ④ 文体が統一されているか。（普通体・です/ます）

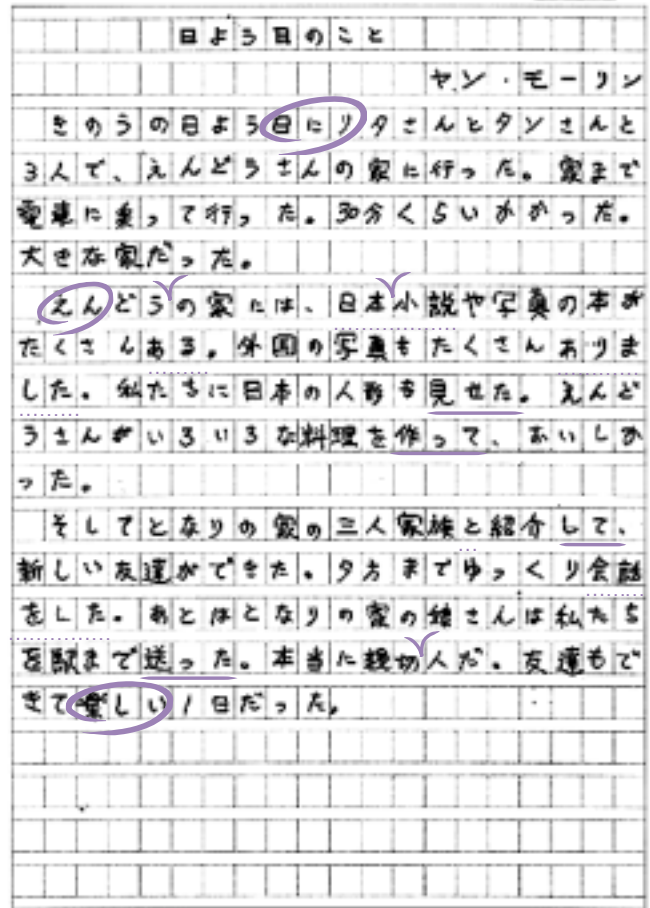
教師がどんなことに注意して作文をチェックしているのかを学生にも知らせ、フィードバックのときにも、どのような間違いなのかが分かるように印を付けるといいでしょう。

右上の添削例を見てください。\_\_\_の部分は「～てもら～てくれる」の間違い。.....の部分は、その他の文法項目や語彙の間違い。また、Yはことばが抜けている印です。そして○の部分はよくできた部分です。教師が正しい答えを与えるのではなく、学生に問題点を知らせ、正しい答えを考えさせたほうがいいでしょう。ただし、印だけでは学生に分かりにくい場合には、例えば助詞の間違いなら（助）などのようにどんな間違いがあるのか分かるようにしてもいいでしょう。

右上の例で「会話をした」などは少し不自然ですが、意味は分かるので、場合によっては直さなくてもいいでしょう。

以上、前回と今回、作文指導について考えてきました。2回を通して作文指導で特に大切なことは、学生のやる気を高めることです。そのために、教師は作文指導の全

## 添削例



体を考えて、学生が書きやすいようにモデルを提示したり、助けを与えたり、わかりやすいように直したり、いろいろな工夫をしていくといいでしょう。

### 参考文献

1. 日本語教育学会編（1982）  
『日本語教育辞典』の「作文の指導」の項目
2. 日本語教育学会編（1990）  
『日本語教育ハンドブック』の「書くことの指導」の項目

このコーナーの担当者：古川嘉子、北村武士（日本語国際センター専任講師）

読者の皆さんのアイデア、成功例、失敗談などをお寄せください。

